KYOTO

KITA YAMA SUGI

京都・北山杉PR BOOK

京都600年の歴史と伝統
匠の技を今に伝え、
新しい時代へと続くために



京都市
CITY OF KYOTO

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



京都６００年の歴史と伝統
匠の技を今に伝え、
新しい時代へと続くために

室町時代、「茶の湯の文化」を大成した千利休によって見出された北山杉。
以来、それを支える茶室や数寄屋の建築用材には欠かせない素材として重用され、
桂離宮や修学院離宮といった様々な建築物に使われてきました。

また、温室効果ガスの吸収や景観、生物多様性の保全といった多面的な機能により
京都の人々の暮らしを支えてきた北山杉ですが、
人々のライフスタイルの変化に伴い需要は減り続け、今、北山林業は大変厳しい状況にあります。

北山杉がなくなれば、日本文化を代表する数寄屋建築をつくることができないと言っても過言ではありません。
またそれに付随する高い育林技術や大工の技術、大工道具の技術なども消滅することになります。
600年以上かけて培われた歴史をここで失えば、取り戻すことは不可能です。

北山杉を使うことはすなわち、日本の文化を守り、北山林業や北山の文化そのものを守ることです。
艶やかな木肌と緻密で美しい杢目、そしてやわらかな肌触りというすばらしい特徴を備え、
伝統建築にも現代建築にも調和する優れた素材“北山杉”を使うことが、北山林業の未来を創ります。

CONTENTS 目次

03 **北山杉の歴史**

04 北山杉とは
05 北山杉の歴史
08 美林景観
09 文化的資産
10 北山丸太の特徴
11 2つの育林方法
12 高品質な丸太を生み出す技術
13 **＜インタビュー＞　北山丸太を生み出す生産者たち**
林業一筋40年の生産者が語る、北山丸太生産へのこだわり
森下武肆商店　森下武洋さん
14 北山林業の現状

15 **特別インタビュー**

16 **「庭屋一如の世界をつくるために北山丸太は欠かせない」**
中村外二工務店 代表 中村公治さん

24 **「丸太を使うことが**
自然と調和した暮らしを取り戻すきっかけになる」
NAP建築設計事務所 代表 中村拓志さん

29 **数寄屋建築の世界**

30 伊勢神宮茶室・霽月
32 伊豆・修善寺　あさば はなれ天鼓
35 **＜インタビュー＞　数寄屋建築を支える職人たち**
丸太を扱う大工に求められる技術
菊池建設株式会社 大工 河崎昌敏さん

36 **新しい利活用の広がり**

37 **特別インタビュー**
「“数寄屋のベンチャー”として新しい使い方を提案していく」
YOSHIHARAGUMI INC.　代表 吉原雅人さん
42 Case Study 「ごはんや一芯 京都店」
43 Case Study 「大丸京都店」
44 Case Study「イオンモール京都桂川」

45 **「建築物等における北山杉の利用促進協定」**
利活用者各社による取組

46 建築物等における北山杉の利用促進協定について
47 取組事例｜京都市
48 取組事例｜株式会社内田洋行
49 取組事例｜菊池建設株式会社
53 取組事例｜ナイス株式会社
56 取組事例｜三井住友信託銀行株式会社

57 **その他の利活用事例**

61 **北山杉視察ツアーレポート**

64 **北山丸太製品**

72 **北山杉・北山丸太製品等に関するお問合せ**



The history of Kitayamasugi

北山杉の歴史

日本最古の林業と言われる、北山林業。

600年にもわたり独自の北山杉の育林技術や北山丸太の生産技術が磨かれ、

その周囲には豊かな文化が育まれてきました。

北山杉・北山丸太の歴史や文化及びその特徴をご紹介します。

What is Kitayamasugi

北山杉とは



約600年の歴史を持つ、

日本最古の人工杉

日本最古の林業

北山杉は、京都市の北西部（京都市北区および右京区）で人工的に育成されている杉です。その北山杉の皮を剥き、表面を磨き上げた丸太が北山丸太です。

北山杉の育成と北山丸太の生産は、室町時代の応永年間（1394年～1428年）に始まったとされており、これが日本最古の林業と言われています。

「京都府の木」であり伝統工芸品としても認定

1966年に北山杉が京都府の木に指定され、その後、北山丸太は「京都府伝統工芸品」・「京都市伝統産業品」の指定も受けています。

日本を代表する銘木の一つ

北山丸太は千利休が手掛けた茶室に使用されるなど、茶の湯文化の発展にとって欠かせない存在となり、日本を代表する銘木の一つとして活用されています。

History

北山杉の歴史

急峻で険しく、太い木を運び出せない土地

京都市北区中川地区を中心とした北山は、水が豊かで冷涼な、杉の木を育てるのに適した地です。

急峻な山々が連なり平地が少なく、わずかな土地に点在する集落では、山林の資源を収穫する「山稼ぎ」（林業）が生業になっていました。しかしながら、北山には木材を流して運べる広い川がなく、大きな木を運び出すのは困難な場所でした。

その一方で、都まで山道を歩いていくと半日ほどで往復できる距離にあり、先人たちは人力でも運べる細い木にいかに付加価値をつけるか、ということを考えていたのではないでしょうか。





制限のある土地から生まれた「台杉仕立て」という独自の技術

北山の急な斜面での植林や育林は大変困難であり、さらに苗木はとても貴重なものでした。そのような中で北山で編み出された独特な育林方法が「台杉仕立て」です。

1つの株から数十本、多い場合には百本以上もの幹を育て、1つの株を1つの森のように更新させていきます。これにより植林の回数を減らし、収穫のサイクルを早め、緻密な木材を作ることができます。京都北部の積雪地帯で伏条更新をする天然の杉の木を見て考え出されたとも言われていますが、これは世界中でも北山林業だけで見られる独自の育林技術です。

History

北山杉の歴史

樹齢600年を超えるマザーツリー

「台杉仕立て」はどんな杉でも良いわけではありません。
まっすぐに伸び、しっかり育ち続けてくれる良い遺伝子を持った木が必要です。それが「シロスギ」でした。中川八幡宮にある母樹は600年を超えても樹形が崩れず、まっすぐに伸びています。
この木から挿し木で増やしたシロスギの子孫たちが、台杉の風景をつくっています。この技術と遺伝子が、北山林業の基本になっています。



推定樹齢600年を超える母樹「八幡宮大杉」



推定樹齢450年を超える「大台杉」

近年、「台杉」は観賞用としても国内外から注目

特に「台杉」は近年、海外テレビで特集が組まれるほど注目が集まっています。狭く急峻な土地でも育て続けることができ、1つの株から多くの幹を育てることができるためカーボンニュートラルへの貢献も期待できる台杉は、さらにそのデザイン性の高さも相まって観賞用としての注目を集め、2021年にはフランステレビ局「フランス2」で特集が組まれ、2022年にはドイツの公共放送「ARD」でも放送されました。樹齢450年を超える大台杉には、日々多くの外国人観光客が訪れています。

History

北山杉の歴史

お坊さんの教えで磨丸太が産まれた

北山にはとある伝説があります。

ある日、僧侶が旅の途中に病気になり、北山の村で行き倒れてしまいました。村人はこの僧侶に食べ物と寝床を提供し、懸命に看病しました。元気になった僧侶は、村人たちに「菩提の滝の滝壺にある砂で、丸太を磨いてごらんなさい」と伝えます。

村人たちが皮を剥いた北山杉の表面を砂で磨いてみると、美しい光沢が現れ、その木は都で高く売れるようになり「磨丸太」の生産で村は大変栄えたと言います。

昭和の時代には和室の床柱として必ずと言っていいほど北山丸太が用いられ、活況を呈しました。

砂で磨く作業は洗い場のある木造倉庫群などで行われ、繊細な作業は主に女性が担当しました。

丸太がぎっしりと並び、出荷を待つ様子からは北山林業の賑わいを窺い知ることができます。

菩提の滝



砂で丸太を磨くのは女性の仕事だったという





かつての北山林業の様子

Landscape

美林景観

樹齢の異なる細かな林分の連なりが形成するモザイク状の景観

北山林業は、高い品質の北山杉を育てるために十分な手入れを必要とすることから、山林所有1人当たりの所有面積が小規模です。また、北山杉の森林1ヶ所あたりの伐採面積は0.1haと非常に小さく、所有者ごとに樹齢10〜40年生の細かな林分が混在することから、おのずと複雑なモザイク状の森林景観が生み出されています。

台杉も含め、このような育林方法は伐採跡地が裸地になることを避けることができるため、生態学的にも環境的にも優れた森林造成方法と言えます。

文化的資産

日本を代表する
文化人をも魅了する景観

川端康成の名作『古都』の舞台に

北山の景色に魅せられた、文豪・川端康成は、小説『古都』（1962年刊行）で京都・中川地区を作品の舞台に。

主人公のひとりである「苗子」は北山杉を生産する村の娘で、小説の中では北山丸太を生産する様子やまっすぐに揃って立つ北山杉を中心にした中川地区の風景が美しく描写されています。この小説は幾度となくドラマ・映画化され、中川地区の各所が登場しています。



川端康成 著『古都』（新潮文庫刊）



数々の文化人を魅了する景観

日本画家の巨匠・東山魁夷も中川を描いた

川端康成と親交のあった日本画家の巨匠・東山魁夷は、北山杉の林をモチーフにした作品『冬の花』を川端に贈り、川端はこれを大変喜び、1962年に刊行された『古都』初版の口絵として掲載しました。さらに魁夷は川端の依頼にこたえ、京都の四季を描いた『京洛四季』を刊行。そのうちの1点である雪化粧した北山杉の林を美しく描いた『北山初雪』を、川端が日本人初のノーベル賞を受賞したお祝いとして贈りました。

北山杉の凛と立ち並ぶ美しい風景に魅了され残していった作品たちは、今なお多くの人たちに北山杉の美観を伝え続けています。

Feature

北山丸太の特徴



細く、強く、

美しい北山丸太



北山丸太品質基準

- 京都市北区、右京区及びその周辺で北山杉から加工され 一定の品質を持つもの
- 木肌に枝打ち跡や変色、キズが目立たないこと
- 曲がりが３mについて15㎜以内であること
- 元末の差が末口の直径に対し元口の直径が３mにつき120%以内であること
- 原則真円に近いものとし、円部分の直径差が５%以内であること

2つの育林方法

2つの育林方法で
太さの異なる丸太を生産



1代仕立て

苗木を1本ずつ高密度に植林し、2〜4年に一度枝打ちを繰り返すことにより、30〜40年程度かけてまっすぐで目の詰まった節のない木を育成する技術。一斉に収穫し、皮を剥き磨き上げて、末口直径9〜16センチの丸太を生産します。丸太は床柱として使用されてきました。



台杉仕立て

手のひらのような形をする台状の杉の木（樹齢100年〜200年）を「台杉」として、そこから鉛直に伸びる幹を選定して細目に枝打ちしながら育成する技術。使用できる太さに育った幹から収穫し、皮を剥き磨き上げて細いタルキ（小丸太）を生産します。1つの台杉から最大約100本ものタルキを収穫することができます。

Method

高品質な丸太を生み出す技術



徹底的な「枝打ち」、磨き、乾燥によって高付加価値の丸太が生まれる

北山杉・北山丸太は苗選びから枝打ち、乾燥、磨きまで、徹底的な品質管理が行われます。

特に必要以上の生育を抑制する目的で余分な枝を落とす「枝打ち」は、北山丸太の最大の特徴でもある節のない美しい木肌を実現するためには大変重要で、熟練の職人技によって高い頻度で行われており、ここまで高頻度かつ繊細なこだわりを持って枝打ちされるのは全国的に見ても北山杉だけです。

様々な技術を持つ職人たちによって大事に手をかけられて育てられ生まれるのが、北山丸太なのです。



枝打ち職人
西川忠男さん

この仕事をして50年近くになります。技術に終わりはなく日々木と向き合いながら研鑽を積んでいますが、枝打ちして綺麗に仕上がった北山杉を眺める瞬間はいつでも嬉しいものです。

作業道具は1日10回以上も研ぎの作業をして寿命は1年くらい。非常に鋭く研いでいるので、常に手や腕の怪我は絶えません。

さらに詳しい育成方法はこちらをご覧ください。

▼京都北山丸太生産協同組合HP
https://www.kyotokitayamamaruta.com/process/

林業一筋40年の生産者が語る、北山丸太生産へのこだわり

森下武肆商店　森下武洋さん

北山杉の育成は、芸術品を生み出す作業

最高の職人による
最高の技術を注ぎ込む

私が若い頃、この地域（京都市北区中川地区及び右京区）では、“長男は必ず家業（北山丸太の生産）を継ぐ”と言われていたくらい北山丸太の生産に力を入れており、私も北山丸太の生産に携わり40年ほどになります。

北山丸太の生産において重要なのは、山を育てる「植林」「育林」という作業。杉の伐採時期は決められているので、生産期間のほとんどの時間を杉の木の手入れに充てています。育成には植林から30年〜40年ほどかかり、これは世界的に見ても非常に短期間ですが、この30年という期間に最高の職人による最高の技術を注ぎ込んで杉を育て、北山丸太を生み出しています。“植林は木を植えて幹を太く育てる”というイメージを持っている方もいるかもしれませんが、北山杉の育成は、1本1本芸術品を作り出すようなものです。

加工技術が優れていても、
素材が良くなければ意味がない

北山丸太はその美しい色艶や木肌が特徴ですが、丸太として製品に加工する工程は30年〜40年という北山杉の育成における“ラストワンマイル”に過ぎません。加工技術を磨いても、素材となる北山杉の出来が良くなければ良い丸太にはなりません。 すべての過程を通じて北山丸太にいかにプレミアといえる価値をつけるかが、北山杉を育てる林業従事者にとって大きなテーマです。

切れ味の鋭い刃物を用いて余計な傷を残さずに綺麗に枝打ちする技術を職人たちは長年培ってきました。木には個性があり、生育状況も木や植林した土地の特徴によって大きく異なります。それを見極め、どのように枝打ちするべきかを判断するのは職人の腕の見せ所です。職人たちは“木と会話をしながら”枝打ちを行い、北山杉を育てているのです。

北山杉の魅力を次世代へ、
そして海外へ

林業にとって重要なのは継続です。山を育てて建材にして収益をあげ、その収益を再び育林に投資して次世代に受け継いでいく。世の中ではSDGsが話題ですが、林業は昔から循環型の経済を生み出してきたのです。しかし近年、伝統的な木造住宅建築や木肌の美しさを活用した空間づくりが減少しており、それに伴って木材・丸太の需要や林業に従事する人材も減少しています。

北山丸太の生産は、先人の苦労と工夫の上に誕生し、茶の湯文化、数寄屋の発展、京刃物の産業発展とともに成長して受け継がれてきました。今後、600年以上にわたる文化を海外へも発信・普及していきたいですね。伝統を生かし継承しながら新しい用途を模索して、北山丸太の美しさを様々なシーンで活用していただきたいと思います。



森下武肆商店　森下武洋さん

Current situation

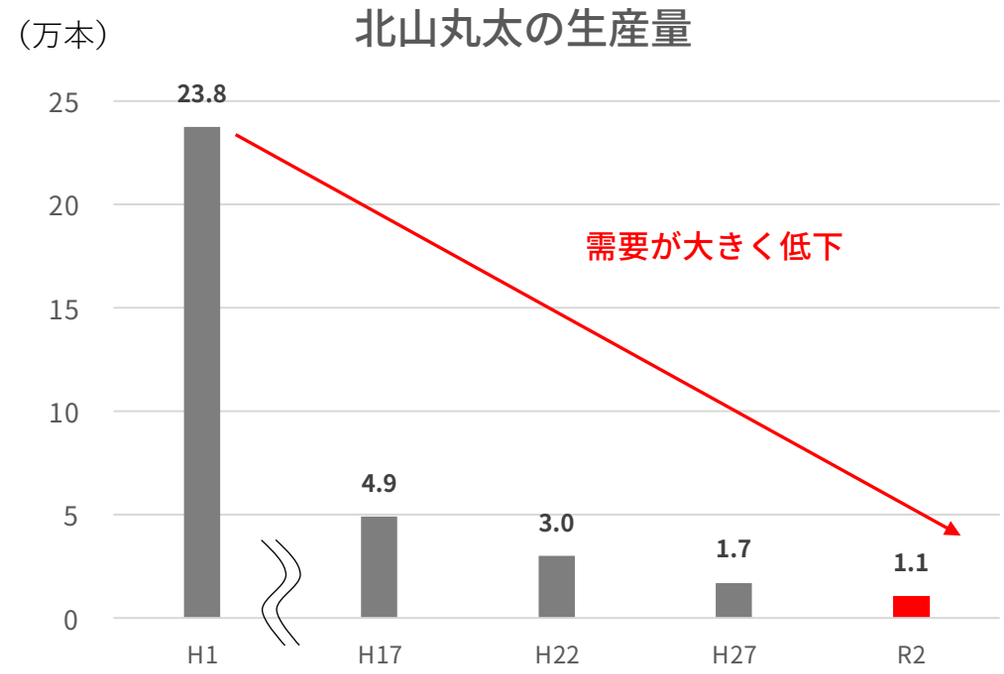
北山林業の現状

利用を推進しなければ、
今後高品質の北山丸太が
生産できなくなってしまう可能性も

桂離宮、修学院離宮といった歴史的建築物や茶室などに使われてきた北山丸太は、昭和以降に和室の床柱として需要のピークを迎え、平成元年（1989年）には約24万本が生産されました。しかし、和室の減少によって需要が低迷し、令和2年（2020年）には約１万本とピーク時の1/10以下となっています。

加えて中川地区では人口の60%以上が65歳以上の高齢者であり、育林から加工まで通常の丸太の数倍以上の手がかかる北山杉の生産を担う後継者や新規の林業就業者の不足などの課題も抱えており、このまま生産が落ち込み続ければ、現在の品質の北山丸太が出荷できなくなる可能性が高いと推測されます。

北山杉・北山丸太を生産できなくなることは、世界中から評価されている日本文化を代表する数寄屋建築にとっても非常に大きな損失であり、絶対に避けなければなりません。



出典：京都市調べ

特別インタビュー

Special Interviews

使い手たちが語る、北山杉・北山丸太の魅力



中村外二工務店　代表
中村公治さん



NAP 建築設計事務所　代表
中村拓志さん

庭屋一如の
世界をつくるために
北山丸太は欠かせない

日本を代表する数寄屋建築の工房として国内外に知られる京都の中村外二工務店。その仕事は個性的な表情を持つ1本1本の木に向き合うことから始まります。中でも地元産の北山丸太は最も重要な材料。

3代目として中村外二工務店を率いる中村公治さんに北山丸太の魅力を聞きました。

PROFILE

中村外二工務店　代表
中村公治さん

72年、京都府生まれ。「中村外二工務店」三代目。京都工芸繊維大学造形工学科を卒業後、「中村外二工務店」にて「羽田空港国際ターミナル江戸小路」の設計・工事の総責任者を務め、中国深圳では「Huawei京都街」の設計・施工に携わるほか、「伊勢神宮茶室」「大徳寺真珠庵」「南禅寺瓢亭」などの修復工事を務める。21年に京都・南禅寺に開業したプライベートホテル「眞松庵」の内装・設計などに携わる。







工房で北山丸太の魅力を語ってくださる公治さん。工房には常に数種類の北山丸太があるという。





杢目の美しさについて話が及ぶ。右が『面皮柱』にしたときの杢目の美しさ。細いのにここまで緻密な年輪は北山丸太だけ。

北山丸太は何が違うのか

北山丸太といえば床柱に使われる磨丸太をイメージする人が少なくありません。しかし中村外二工務店では、シンプルな磨き丸太を床柱に使うことは少ないといいます。

「『丸太普請』や『数寄屋造り』などと呼ばれる自然の風合いが豊かで素朴な表情の建物をつくる上で、北山丸太は欠かせない存在です。おっしゃるように床柱に使われて人気が出たことから、北山丸太といえば床の間の磨丸太のように受け止められています。しかし私たちはプレーンな磨丸太を床柱にはあまり使いません。使うのは廻りの柱や庇を支えるタルキ、それを受ける桁などですね。」

そもそも杉は檜と並んで建築材料として一般的な存在です。全国には名の知られた産地も多く、例えば「秋田杉」「吉野杉」「尾鷲杉」などは良く知られています。それでもなぜ北山丸太なのか。初代中村外二氏が1931年に京都に工務店を構えて以来90余年、中村外二工務店は北山丸太を使い続けています。公治さんはその理由をこう語ります。

「北山丸太は、全国に産する杉の中でも唯一無二の存在だと思います。それは自然の風合いを持ち、そして美しいということです。丸太というとログハウスに使われるような荒削りのものをイメージされるかもしれません。しかし北山丸太は丸太でありながら非常に繊細な表情をもっています。節がなく硬く緻密で、また独自の磨き工程を持つことで色が白く、光沢があります。しかも1本1本が微妙に異なり、えくぼのような、わずかなくぼみが所々にあったり『絞り』と呼ばれる波状の凹凸が入ったものもあります。柱として使う場合に、丸太のままではなく4つの角に丸太の皮を残しながら製材する『面皮柱』というものがありますが、北山丸太はこの時に見えてくる杢目も緻密で非常にきれいです。厳しい気候の下で時間を掛けて育つので年輪が細かく、さらにしっかり手入れをしてまっすぐに育てますから年輪はきれいな同心円を描く。面皮柱にしたときの杢目の美しさはそこからきています。」







若い人も含めて活気の溢れる
中村外二工務店の工房。

確かに世の中には丸太材がいくらでもある中で、ここまで小径でかつ繊細な美しさを持ったものは北山丸太しかありません。初代中村外二氏も北山丸太に惚れ抜いたといいます。

「もともと祖父の中村外二は富山の出身です。外二というのはすごい名前だと思いませんか。家は長男が継いでいく、次男、三男は家を出て自分でなんとかしろと、ということをそのまま名前にしたようなところがあります。祖父は富山で丁稚奉公をして大工になり、1931年に京都に出ました。京都にはすばらしい文化があり、それを支える職人たちがいました。大工職人はもとより、優れた土と左官職人、唐紙や和紙と和紙職人、さらに漆を磨く蝋色（ろいろ）師、錺師、指物師がいる京都でなければいいものはつくれない、と思ったからです。北山丸太にも京都に出てきたからこそ出会うことができたのだと思います。」

戦後、中村外二氏は茶の湯の文化を担う裏千家と出会います。腕を見込まれ、裏千家の出入り大工となったことが新しい道を拓いたと公治さんは語ります。

「家元の茶室をはじめ国内外で次々と茶室の普請を請け負ったことが祖父のセンスと才能を花開かせるものとなったと思います。その中で、北山丸太の使い手としての目も腕もますます鍛え上げられたのではないでしょうか。祖父は暇さえあれば材木店でこれという木を物色し、気に入った木は使い道が決まっていなくてもどんどん購入してまわりを困らせたこともあったようです。仕事の合間に倉庫に入って、それらの木を見ては、あそこの現場には是非これを使おうと、構想を巡らせるのを楽しみにしていたと聞いています。」

北山丸太が引き出した大工技術

もちろん北山丸太は自然の素材ですから、丸太の扱いは高い技術が必要です。

「見た目は同じようでも、1本1本で太さは微妙に違い、また地面に近い“元”とてっぺんの“末”の部分でも太さは違います。真円といっても人工的なものではありませんから多少のゆがみはあります。それと付き合わなければ建築材料として使えません。それが大工技術を高めることにつながってきました。」と公治さん。

「機械で四角く製材すれば、木材はどこをとっても寸法が同じで、水平・垂直が整った材料になります。しかし丸太はそうではありません。柱や梁、桁を丸太同士で組み、さらにそこに細い丸太のタルキを乗せ、その全体を水平・垂直に仕上げるためには高度な大工技術が要ります。しかも柱が乗る足下の束石も天然のものですから、高さも形も1つ1つ異なります。また、釘や金物を使わずに丸太同士を緊結するための技術も必要です。北山丸太の美しさを損なわずに堅固な建築物として組み上げるために技術の工夫が重ねられ、それが何百年という年月を経ながら代々受け継がれてきました。それは北山丸太が美しいからだと思います。ほかに代わるものはありません。この材料の美しさを損なわずに使いたい――北山丸太が技術を引き出し、高度化させたのだと思います。」





一本の北山丸太が軒を支える。
タルキにも丸太を使い小舞を直行させることで浮遊感と陰影をつくっている。



出書院のある10畳の座敷。障子を夏用の簀戸に替えている。柱は北山丸太の4面を削って杢目を見せた面皮柱。小径の北山丸太が支える土庇が庭に向かって伸び、建物と庭とを結びつける役割を果たしている。

庭屋一如を表現する材料として

初代中村外二氏と中村外二工務店が、北山丸太を使うことでどのような世界をつくろうとしたのか、北山丸太を数寄屋建築の中でどう生かしてきたのか、3代目中村公治さんが案内してくれた自邸は、そのことを雄弁に語るものでした。京都市内の住宅地の一角に、ひっそりと佇む自邸と茶室は、道路からはその全貌が見えません。道路沿いにはトタン張りの質素な塀が巡らされ、小さな門を潜り敷地奥に進むまで建物は見えてこないのです。

「この自邸と茶室は今から35年前、祖父が80歳の時に自ら設計して建てたものです。祖父は日頃から大工風情が立派な家を建てるものではないと自ら戒め、自社の職人が3ナンバーの自家用車に乗ろうものなら、何様だと思っているんだと叱っていました。しかし晩年、『もう80になったからそろそろいいだろう』と言って、思いの丈を注いでこの家を建てたんです。」

出書院のある10畳の座敷は、初代中村外二氏ならではの工夫に溢れています。柱はもちろん北山丸太。丸太の4面を削って杢目を見せた面皮柱です。丸太のままでは野趣が強すぎるということから採用されたものでした。庭に向かって小径の北山丸太（タルキ）が支える土庇が大きく伸び、建物と庭がつながっています。

「数寄屋建築には『庭屋一如』という言葉があります。庭と建物を分けずに一体とみる考え方です。この座敷はまさにその考え方に沿ったもので、例えば広縁を設けず窓の外にすぐ庭がくるようになっています。一般の日本家屋は庇の下を板張りの広縁や縁側にしてその外にガラス戸や雨戸を設けます。それだけ室内も広くなるのですが、祖父は敢えて座敷にすぐ庭がつながるようにしました。庭が近くなり、目に入る庇も大きく、垂木の丸太もしっかり見えてきます。建物と庭の連続感や一体感がさらに強まるのです。祖父がこの座敷の設計で最も大切にしたのは、まさに『庭屋一如』の精神でした。」



タルキがしっかりと目に入る座敷。



窓から見える庭の景色について説明してくださる公治さん。外二氏が最もこだわった部分だという。

庭との関係は出書院の作り方や床脇のガラス窓の取り方にもよく表れていました。

「出書院は脚を下ろして座れるようにしているので、単に形式として設けたものではなく、実際に書斎スペースとして日常的に使えます。正面には枝振りの美しい松と紅葉が楽しめるモミジを植えて、古い朝鮮の灯籠を置いています。いつまでも眺めていたくなるような景色が広がります。また出書院の窓は3枚の引き戸にして、開けたときに2枚分の開口が取れるようにしています。普通は4枚の引き戸にして左右に引き分けますから3枚というのは変則的ですが、それでも大きな開口部をとることを優先したわけですね。また、床の間の横の床脇も違い棚ではなく大きなガラス窓にして外の眺めを取り込んでいます。まさに『庭屋一如』を突き詰めた設計になっています。」

自然の中に在ることを教えてくれる存在

中村外二氏が晩年に建てたこの自邸は、現在、3代目の中村公治さんが受け継いで住んでいます。北山丸太の柱も土壁も35年前のまま。随所に使われた北山丸太は年月を経て艶のある飴色になり、土壁も落ち着いた風情を醸し出しています。

「新築間もないときよりも、この土地に馴染み、ここになくてはならない風景になっていると感じます。」と公治さん。

「20年、30年と歳月を経る中でこういう味わいが出てくると誰が予想したのか不思議な気もします。はっきりとこうなると、その色まで想像していた人はいないでしょう。しかし日本人ならだれでも、歳月に促された変化を美しいと感じ、そこに価値を見出すことができます。北山丸太は、庭の自然と建物や人の暮らしをつなぎ、経年の美しさを示しながら、私たちが大切にすべき本質的な美とはなにかということを教えてくれる存在ではないかと思います。」

北山杉と北山丸太――それは自然の中で、自然と共に生きているということを私たちに思い出させてくれる存在です。



中村外二工務店が手がける数寄屋建築の世界観を体験！

一度は泊まってみたい、北山杉が使われている宿泊施設

（左から50音順）



THE HIRAMATSU 京都

京都市内に2020年3月にオープンしたホテル。室町通に残る築120年の京町家の建物を継承し、数寄屋建築の技術と哲学を注ぎ込んだ、伝統と革新を備えた優美なホテルです。
※北山杉はホテル1階にある「割烹 いずみ」にある欅の一枚板のカウンターの両端等に使われています。

京都府京都市中京区室町通三条上る役行者町361
TEL：075-211-1751
https://www.hiramatsuhotels.com/kyoto/



眞松庵

京都・岡崎に誕生した4室だけのホテル。各客室に北山丸太を含む選び抜いた自然の無垢材をふんだんに使い、数寄屋建築の伝統の技術を注ぎ込み、和モダンを極めた空間を作り出しています。

京都府京都市左京区岡崎円勝寺町91-5
※紹介制に付き電話番号は非公開
https://shinsho-an.com/



高山荘 華野

有馬温泉の高台にある閑静な花の宿。館内には版画やプリミティブアートの作品が多く並び、その感性の象徴として北山丸太などの建材や細部にまでこだわり抜いた数寄屋スイートルーム「双葉葵」が2022年春に誕生しました。

兵庫県神戸市北区有馬町400-1
TEL： 078-904-0744
https://www.arima-hanano.com/

丸太を使うことが
自然と調和した暮らしを
取り戻すきっかけになる

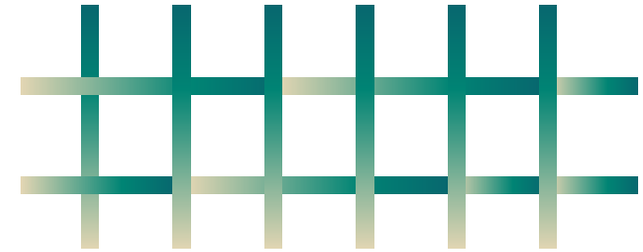
豊かな自然に恵まれた土地で、その土地に溶け込むような建築を数多くつくってきた建築家の中村拓志さん。今、自然が様々な脅威となって人々の暮らしを翻弄する中、自然に生かされているということを改めて知り、感じることができる建築が求められていると語ります。その重要な材料として使われているのが北山丸太です。

PROFILE

NAP 建築設計事務所　代表
中村拓志さん

74年東京生まれ。99年明治大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了。同年隈研吾建築都市設計事務所入所。02年NAP建築設計事務所を設立。現在、明治大学 理工学部 特別招聘教授。自然現象や人々のふるまい、心の動きに寄りそう「微視的設計」による、「建築・自然・身体」の有機的関係の構築を信条としている。そしてそれらが地域の歴史や文化、産業、素材等に基づいた「そこにしかない建築」と協奏することを目指している。近年はそのエッセンスを日本の伝統的な建築や庭園文化の中に発見し、それらの再構築にも取り組んでいる。





社会が自然とどう付き合うのか、今はそれを考え直す時

自然や人々のふるまい、心の動きに寄りそう設計を通して、建築と自然と身体の有機的な結びつきをつくりあげることを目指す中村拓志さん。事務所開設以来20余年にわたる仕事の中でつくりあげてきた建物は、その地域の歴史や文化、産業、さらには素材と結びついた「そこにしかない建築」として高い評価を受けています。その中村さんが今、自身の課題の一つと語るのが、都市の中で自然とどう調和した暮らしを実現するのか、そのために住宅はどうあるべきなのかということです。

「社会が自然とどう付き合うのか、今はそのことを考え直す時だと思います。人間中心主義で自然を駆逐してきた人間社会は、コロナウィルス、世界的な気候変動、山火事、集中豪雨など自然からとてつもない脅威を受けています。私は自然をコントロールできないものと自覚し、自然に生かされているということを体で感じることができる建築をつくりたいと考えています。」

都市に求められる「市中の山居」

都市において自然を感じる要素は庭です。中村さんは住宅が密集し、開放的な広々とした庭をつくることが難しい条件の下でも、庭を確保しそれを室内空間に連続させることを常に考えていると語ります。

「庭は自然の再構築といわれます。純粋無垢な自然ではありませんが、自然との対話ができる場所です。そういう場所と室内空間が有機的な関係を持つようにすることは都市住宅では欠かせません。確かに都市部の住宅環境は広い庭を取ることを難しくしていますが、例えば私がよく使う光学ガラスのファサードなどを工夫すれば、光を取り入れ、街の気配を感じながらも、プライバシーを確保することができます。もともと日本人は都市の中で自然を感じる空間づくりをいろいろ工夫してきました。17世紀の堺の茶人たちが工夫した『市中の山居』もその一つです。当時の堺は世界一といわれた人口密集都市です。その中で茶人たちは住まいの中に極小化された形ではあるけれども自然を感じさせる空間をつくりました。この考え方は現代の都市住宅でも有効だと思います。コロナ禍で二拠点居住が話題になり、キャンプがブームになりました。サウナも流行っています。自然の中で、あるいは自然を身近に感じながら暮らすということが理想と考える時代がきているのではないかと思います。都市にいながら山中にいるような庭園性のある建築をつくるということが今の私の大きなテーマの一つです。」



中村さんが手がけた、都市部に建つ4人家族の住宅「The House of Cascade」。北山丸太のタルキが天井と深い軒を支え、ガラス戸を開け放てば室内とテラスは完全に一体となる。

丸太が教えてくれる
自然に合わせるという生き方

空間を形づくる素材（マテリアル）の次元でも自然のものとの関係性を再構築する工夫が必要だというのが中村さんの考えです。例えば中村さんがある住宅に採用した収納扉は取っ手がありません。扉の素材に敢えて節の多い木を選び、その節穴をすべて抜いて、そこに指を掛ければ扉が開けられるようにしているのです。

「普通なら人間にとって一番都合のいい場所に取っ手を付けます。しかしこの扉は人のほうが自然に合わせます。本来、素材と人の関係というのはそういうものなのではないかと思うんです。」

中村さんは建築の素材として丸太を多用していますが、それも同じ理由からだと話します。

「木は製材されてしまえば寸法もまったく同じの角材になってしまいます。しかし丸太のままであれば、1本ごとに太さが違い、1本の丸太でも根元と先端では太さが異なります。表面にわずかなくぼみがあったり、少しねじれているものもあります。しかし職人さんは、その1本1本と対話しながら細かい手仕事を重ねて丸太と丸太を組み合わせていきます。自分たちの想定してない形を前にして、人間のほうがいろいろ工夫してつくっていくわけです。自然に合わせるという生き方、いわば哲学がそこに反映されていると思います。だから私は丸太が好きなんです。」





和のテイストを緩和するため無漂白の北山タルキを使い、小舞を矢羽根に。

北山丸太の価値を伝えるのは建築家の使命

旅館や飲食店、商業建築などで和の意匠を楽しむために北山丸太を積極的に使う動きがある一方、住宅で北山丸太を使う機会は大きく減っています。需要が落ちればそれを扱う熟練の職人さんたちも姿を消し、山そのものの維持すら難しくならざるを得ません。北山丸太をもっと使うためには、その魅力をクライアントに伝え、その理解のもとで使用機会を増やしていくしかなく、建築家の役割は小さくないと中村さんは考えています。

「数寄屋造りの座敷や茶室だけでなく、現代の都市の住まいに北山丸太を使っていく工夫が求められていると思います。例えば『The House of Cascade』では、光学ガラスのファサードを滝に見たてて庭園をつくって室内側から軒を深く出しました。タルキで軒を支えていますが、野地板とタルキの間に入れる小舞をヘリンボーン張りにすることで和のテイストが出過ぎないようにして、現代の洋空間に合わせました。また、タルキは、北山丸太の桁に支えられ、室内から室外の軒先まで連続しているように見せていますが、実は桁のところでいったん切っています。そのまま通すと高気密・高断熱仕様が求められる現代の住まいの性能を確保できなくなるからです。ただし、元々1本であったものを内外で連続させるように使っているので、見ただけでは切れているとはわからないようにしています。これも現代の住まいに丸太を使うための工夫のひとつです。またこれは、他の材木になりますが、丸太の半割と2面だけ丸太部分を落として太鼓状にしたものを組み合わせて構造材としたケースもあります。丸太の強さと冗長性を残しながら、職人技がなくても丸太を使えるようにしたものです。また、この使い方なら一部だけを取り替えながら建物を長く維持することもできます。建築側の工夫があれば北山丸太はもっと使えると思います。」

中村さんがつくる丸太の建築は人が自然のなかでどう生きていくのか、自然と人間のあるべき関係はどういうものなのかということを、改めて人間に問いかけています。

数寄屋建築の世界

日本の伝統的な建築様式の一つである数寄屋建築。
素材と技術に徹底的にこだわり、侘び寂びを体現する繊細で風流文雅を感じさせるつくりは、慌ただしい心を静め、自然の中にある自分を取り戻すことのできる空間です。そのいくつかをご紹介します。

The true spirit of Japanese architecture



設計・施工：菊池建設株式会社

伊勢神宮茶室・霽月

三重県伊勢市にある伊勢神宮には、1974年から1984年まで伊勢神宮崇敬会の会長を務めた松下幸之助氏によって献納された神宮茶室があります。卓越した経営者であるだけでなく、侘び寂びの心を知る茶人でもあった松下幸之助氏は、日本の伝統精神の高揚を願い「300年保ち、歴史的遺産となるような茶室」を神宮に献納することを思い立ち、建築を中村外二氏に依頼しました。このときすでに松下幸之助氏は、数寄屋建築の第一人者として誰もが認める中村外二氏に全国10カ所で茶室を依頼していました。神宮茶室はその最後の一棟となるものでした。設計監修は当時の裏千家家元・千宗室氏。1983年3月に起工式が行われ、2年後の1985年4月に竣工しました。

宇治橋を渡った左手の「紅葉苑」と呼ばれる地に、その茶室は建っています。建物は真行草の3棟からなるもので、真は書院風の格調高い上段の間で、周囲には広縁を巡らし屋根は檜皮葺の入母屋造。行は切妻屋根で欄間に若松模様を配した二つの広間があります。草は柿葺きの四畳半席で当時の鷹司和子神宮祭主が「霽月（せいげつ）」と名付けました。霽月とは雨が上がったあとの月を指す言葉で、曇りがなくさっぱりとした心境を意味します。軒高を低く、軒先を深く出し、北山杉をはじめとする簡素で美しい材料を組み合わせることで周囲の自然と融け合った茶室となり、数寄屋技術の粋をこらした昭和の名建築として知られています。



格調高くつくられた上段の間外の広縁。地板は赤松。色味が揃うよう1本の木から取られている。
北山丸太の丸桁とタルキの小丸太が清楚な美しさを醸し出す。数倍以上の丸太から同じ太さのものが厳選された。



四畳半茶室・霽月外観。
屋根は柿葺き。



霽月化粧軒裏天井（左）。
桁・柱・隅木に北山磨丸太が使われている。裏板は黒部杉份板、女竹藤蔓巻き。



霽月室内（右）。
天井から下げられた、和紙でできた美しい照明器具（右）



伊豆・修善寺

あさば はなれ天鼓

今から1200年前、弘法大師によって開かれたといわれる伊豆最古の修善寺温泉。そこに国内屈指の名旅館「あさば」があります。空海が開創「修禅寺」に、1489年、浅羽弥九郎幸忠が開いた宿坊がその始まりといわれ、以来現在まで530年、浅羽家というひとつの家に受け継がれてきました。

監修：当主 浅羽一秀

設計：有限会社横川正広建築設計事務所

施工：菊池建設株式会社



「はなれ天鼓」の全景。220㎡の広さがある。
1日1組限定の贅沢な客室だ。



伝統的な和の世界を踏襲しながら心安らぐ
空間がつくられている。
床柱は北山杉の磨丸太。独特の上品な美し
さが、やわらかな光に浮かび上がる。

桂川のほとりにひろがる約1万坪の広大な敷地は深い緑に覆われ、竹林を背にした600坪の池には、明治後期に移築された加賀の前田利鬯（としか）子爵寄進の能舞台が浮かびます。それを囲むように建てられた数寄屋造りの建物に全11室の客室、さらに2019年夏に完成した「はなれ天鼓」があります。いずれの部屋も日本の伝統素材を厳選し、細部の意匠にもこだわってつくられたくつろぎの時にふさわしい空間ですが、なかでも「はなれ天鼓」は、現在では入手することが難しい最高の素材を厳選し、日本の伝統の美しさを受け継ぐ意匠と伝統構法、そして左官や建具など各職職人の技が生かされた、日本建築の美の粋を極めた仕上がりです。

その中で欠かすことのできない材料として使われているのが北山丸太。床柱と床框（とこがまち）には磨丸太、部屋の要所には面皮柱（めんかわばしら）と呼ばれる４つの角に丸太の皮を残した柱が使われています。

北山丸太が使われるのは、他の木材では決して得られない上品で繊細なやさしさを表現できる材料だからです。茶の湯の侘び寂びの感性から生まれた数寄屋造りは、権力者が自らの力を誇示するためのものではありません。それとは反対に、威張らず、ほのかに野趣を感じさせながらそこにいる人をやさしく包んで、人と人が静かに向き合い、あるいは四季折々の自然を楽しみながらくつろぐ空間をつくりあげるものです。直線で構成される凛とした世界の中に、丸みがありしかも粗さを感じさせない繊細な美しさを兼ね備えた北山丸太が、独特の穏やかな調和美を醸し出します。

「はなれ天鼓」は、現当主を先頭に、その想いを知る建築家や建設会社、各職の職人が一体となって完成させました。そこで目指されたのは、浅羽家が500年余りにわたって守り続けてきた伝統美の世界の集大成。もちろん鑑賞のためではなく、おもてなしに供する最高の空間としてつくりあげることでした。

取組は北山丸太を選ぶところから始まりました。床柱に使われているのは、一般に見られるものよりは細めです。もともと数寄屋造りには柱をはじめとする各部材の幅や厚さの比例関係を詳細に定めた「木割り」と呼ばれる規格があります。床の間の間口にふさわしい床柱の太さや長さ、それに比例させた落とし掛けや床框の標準寸法などが決められているのです。しかし「はなれ天鼓」ではあえて細めの床柱を採用、それに合わせて各部材のサイズも検討されバランス良く納められました。「木割り」は不可侵のルールではありません。それに固執することは、むしろ数寄屋独特の自由で創造的な精神に反します。最高のくつろぎの場にふさわしい空間を、という配慮から、施工現場に当主をはじめ建築家や建設会社の現場監督、職人が集まり、実際に部材を仮置きしながら、もう少し細いものに、もう少し低く、あるいは傾きをわずかに弱めるといったミリ単位の調整が重ねられ、穏やかな落ち着きのある居室が完成しました。その配慮の一つ一つは、決して目立つものには見えませんが、その積み重ねが「理由はわからないが、とても心が安らぐ部屋だ」と宿泊客が感じる空間を生み出しています。

なかでも当主が選んだ床柱は、天然の絞りがさりげなく入った磨丸太の逸品でした。その凹凸は深すぎず浅すぎず、また表面には微妙な表情の変化があり、外から入るやわらかな光に浮かび上がる姿は、それ自体がひとつのアートのようで、「はなれ天鼓」の独特の世界観を象徴する存在になりました。また四方に立つ面皮柱も、多くの材の中から、台面に現れる中杢（なかもく）と呼ばれる木目を1本1本吟味し、それに応じてどの材をどこに、どの向きで立てるかということまであらかじめ検討されたうえで選ばれています。

現代では、和室を備えた住まいは少なくなりました。その理由は、世界に誇る繊細で美しい和の文化の本質である、日常の中にある美を見出すこと、さりげない中の美しさを愛でる感性が薄れてきたからではないでしょうか。今こそ、日本の建築の伝統美の世界を継承するために、真に価値のあるものをつくり、その本質を伝えることが必要です。「はなれ天鼓」は、その意味でも貴重な存在であり、北山丸太は大変重要な役割を担っています。



床柱として選ばれた北山丸太は一般的に用いられる床柱よりも細い丸太。表面の表情もさりげなく、ごまかしがきかないため職人の技術が試されたという。

丸太を扱う大工に求められる技術

菊池建設株式会社 大工 河崎昌敏さん

加工に技量が問われる丸太は、職人を選ぶ

私は普段は主に木造の一般住宅を施工していますが、神社仏閣や数寄屋造りの和風建築、幼稚園や老人福祉施設といった大規模木造建築（これらを総称して特殊物件と呼んでいます）にも携わっています。大工は師匠と弟子の文化なのですが、私の師匠が特殊物件を手掛けることが多かったこともあり、自然と特殊物件を手掛けることが増えました。当社の場合、和風の一般住宅では下屋（家屋の屋根に付随して設けられる片屋根）を支える桁と柱に丸太材が標準採用されているため、丸太を加工・施工する機会は多い方ですが、数寄屋造りの案件を手掛けるときには丸太を取り扱う数量がさらに増えます。

丸太は、私たちの会社では工場でプレカットして使用する他の一般的な木材とは異なり「特殊材」と呼んでいます。

それは丸太という木材が工場でのライン生産に向かず、その加工に職人の技量が問われるから。“丸太は職人を選ぶ”のです。丸太を建材として使用する過程のほとんどでは機械による効率化が不可能で、大工が自分の技術力だけで施工していかなければなりません。丸太を扱う大工に求められるのは、「ノミ」や「丸ノミ」といった道具を使いこなす技術。そして「ノミ」や「丸ノミ」をメンテナンスする技術も問われます。

丸太は平らな面が一切なく、円形の形も太さも均一ではありません。1本1本異なる個性を持っていますので、その中で「どの位置で加工するのが適切か」を見極める技術が重要です。特に刃を入れる場所に目印をつける「墨付け」や、玉石に建てる丸柱の下端や丸桁と丸柱の接合箇所など相手の形状を写し取ってピッタリ合わせる「ひかりづけ」という作業は、豊富な経験と大工のセンスが求められる世界です。

最近では「ノミ」を扱える大工、丸太を扱える大工は減少してきました。「丸ノミ」を持っていないという大工も多く、丸太を扱うのに丸ノミを持っていなければ手出しもできません。「ノミ」や「丸ノミ」を扱う技術は大工としての技量を上げる上で大切なことなのですが、和風住宅へのニーズ低下なども背景に、残念ながらこうした技術に興味を持つ大工は減少傾向にあると思います。数寄屋造りの仕事をやることが決まるたび、加工する木材リストの中に丸太が含まれているのを見ると“腕の見せ所”だと思わずワクワクしてしまいます。一方で様々な難しさを伴うことから身が引き締まる思いがするのも事実。

北山丸太は年輪が詰まっていて硬く、緻密な加工がしやすいですね。実際に丸太を使用・加工しながら苦労して組み上げた数寄屋造りの建物が完成すると時間を掛けて作り上げた分とても嬉しいですし誇らしく感じます。



実際に職人さんが使う丸ノミ（上）
骨の折れる「ひかりづけ」の作業（下）

新しい利活用の広がり

丸太や板材、木工製品まで。
これまでの常識にとらわれない、北山丸太の活用が始まっています。
しっかりと強度があり、加工しても美しい北山丸太。
その幅広い活用事例をご紹介します。

Expanding Utilization of Kitayamasugi







Special Interview

“数寄屋のベンチャー”として新しい使い方を提案していく

「デニムに合う上品なカジュアル」をコンセプトにファッションブランドを展開する「Shinzone（シンゾーン）」。その新店舗の内装に北山丸太を大胆に使ったのが吉原組の吉原雅人さんです。モダンな空間に取り入れる北山丸太の新たな使い方は大きな反響を呼びました。着想から実現までの取組について話を聞きました。

PROFILE

YOSHIHARAGUMI INC.　代表

吉原雅人さん

武蔵野美術大学院卒業後、東京を拠点とする数寄屋建築会社「株式会社藤森工務店」に入社。その後、京都に拠点を置く日本建築を手がける「株式会社 三角屋」を経て、15年に吉原組に入社し、設計部門「YOSHIHARAGUMI.INC」を立ち上げる。





モダンなファッションブランドの内装を検討

一級建築士事務所の吉原組を率いる吉原さん。現在は住宅をはじめとする様々な建物の建築設計や内装デザイン、プロダクトデザインなど京都を拠点に幅広く業務を展開しています。2023年5月にオープンした「Shinzone 表参道本店」の内装デザインを担当、モダンなファッションブランドの旗艦店ともいえる都心の店舗デザインに北山丸太を大胆に採用したことが、ファッション業界の枠を超えて大きな話題となりました。

「Shinzoneさんとは、takes.という竹100%の糸を使ったファッションブランドを展開したときからお付き合いがあり、本店を表参道に移転するので内装デザインを担当してほしいという依頼を受けました。」と吉原さん。

「もともとShinzoneさんは、履き古し、着古していく中で増していく味わいを楽しむデニムをメインに展開しています。私自身も、吉原組設立の前に長く数寄屋建築の世界で仕事をして、無垢の材料が経年変化しながらどんどん美しくなる、というところに価値を感じてきたところがあり、その点では共通したものがありました。今回も、デザインの基本コンセプトにサステナブルやSDGsというキーワードをもらっていました。」

ただの木ではなく
「北山丸太」を使うことを提案

新店舗の内装に使う材料としてリサイクル素材や新素材などいくつかの候補が打ち合わせの中で出たものの、それらにはあまり魅力を感じなかったと吉原さんは語ります。

「店舗の内装というのは長くても4、5年の寿命しかありません。いかにリサイクルできる素材であっても、解体し、分別し、トラックでガソリンを使って輸送し、さらにエネルギーを使って再生して使うとなると、このプロセスで発生するエネルギーは小さくありません。その時に考えたのは木を使うことです。木は元々CO_2を取り入れ、それを体に固定して成長するものですから、燃やさない限りCO_2をストックしています。しかも、木であれば再利用も簡単で分別の手間もありません。ですので木を使おうと思いました。」

しかし、それだけでは魅力のある提案にはならないと考えた吉原さん。特定の産地の木材を「目に見える形で表に」というポリシーのもと、北山丸太を使うことを提案したいと考えました。地元京都の北山丸太は、今需要を呼び起こさなければ山そのものがだめになるかもしれないと、吉原さんは危機感を募らせていました。建築の勉強を終えて社会人となった吉原さんは、東京で伝統的な数寄屋建築の会社に8年、その後は京都で数寄屋建築をメインに木造建築の仕事をしていた設計事務所に10年ほど勤めた経験がありました。数寄屋建築や北山丸太は吉原さんにとって身近な存在で、その価値の高さも、しかし需要減とそれによる森林経営の困難という大きな課題に直面していることもよく知っていたのです。一方で、吉原さんは北山丸太を扱う側にも課題があるのではないかと感じていました。ただ単に数寄屋建築に欠かせない材料として北山丸太を復活させようとしても、北山丸太の需要増は見込めないと考えていたからです。

材料は京都北山丸太生産協同組合の倉庫に訪れ直接買い付けた






職人の技術を必要とせずに大量に使う

吉原さんが「Shinzone」の代表に提案したのは、北山丸太という歴史的に価値の高い材料の需要が減り、数百年継続してきた伝統産業としての北山丸太の生産体制も危うくなっている中で、1本2本と銘木として使っても意味はない。できるだけ大量に購入し、高度な技術抜きに製品化することを考えたいということでした。

「店内のパーティション（仕切り壁）に使おうと思いました。横に積み上げます。高度な技術は要りません。確かに微妙に太さが違ったり、元と末で太さが違っていたりしますが、丸太と丸太が重なる面をまっすぐに挽いてきれいに重なるようにしました。横に積むことでモダンな印象が出ます。あとは穴をうがって向こうが見えるようにしただけです。こうすれば簡単にしかも大量に使えます。代表にはただ木を使いますということではなく、伝統ある北山丸太を守るためであり、そのための具体的で効果的な一歩だということをプレゼンテーションして共感を得ました。」

新店舗のオープンに合わせて廃棄デニムを使った別注コレクションの発売を進めることにしていたShinzoneも「北山杉を守る、あの山を元気にする」という吉原組の一歩踏み込んだメッセージに共鳴し、一般の木材を使うよりはコストが嵩むことを承知の上でGOサインを出しました。





丸太は1本毎に微妙に太さが異なるが重なる面を太鼓落とし（2面落とし）に加工して積層した。







北山丸太を縦使いするときは上下に金属棒を
入れて床・天井に固定した。

今でこそ数寄屋は伝統工法の一つとして重く、その約束ごとも動かしがたいルールのように扱われています。しかし書院造りが全盛の時代に登場した数寄屋造りは、権勢を象徴するかのような格式ばった白壁と直線の世界を真っ向から否定するものでした。

「数寄屋造りは、皮付きの曲がった木がそのまま座敷内に使われていたり、土壁であったり、当時の主流であり常識である書院造りでは考えられなかったものばかりだったと思います。要するに時代の最先端でありパンクだったわけです。それはとても大事なことだと思います。数寄屋が伝統にあぐらをかいて権威になってはいけない。パンクの精神は持ち続けなければいけないと思うのです。もちろん何でもいいから好きなことをするということではありません。私自身、伝統的な数寄屋の世界で学んできたから、その美しさも技法も知っているつもりですし、敬意をもっています。誰でも扱える材料ではないし、やってはいけないこともあると思う。だから理解しつつ崩す、ということですね。それが北山丸太の新しい使い方につながり、その結果山が守られていけばうれしく思います。」

数寄屋を知る数寄屋のベンチャーとして、これからも新しいことにチャレンジしていきたいと語る吉原さん。北山丸太の新しい使い手のひとりです。







Case Study

磨かれた表面のやわらかな感触を足裏で体感する「磨丸太のフローリングパネル」

ごはんや一芯 京都店

ウッドデザイン賞2023

大阪・関西万博 特別賞（国際博覧会担当大臣賞）受賞

木の艶と手の質感が極限まで融合された芸術性の高い表情を持つ北山磨丸太。

この美しい表情と優しい質感を余すことなく感じてもらえる素材として「磨丸太のフローリングパネル」を考案しました。1200㎜に分割された北山丸太を垂直方向に四分割し本実加工した後、パネル下地に貼り合わせて床に張っていくことで、自然の造形である丸太表面が畝のように連続した、足触りの心地良い新しい表情を空間にもたらします。

「ご飯」の香りがする古来の日本人の暮らしの中心であった台所＝竈(くど)とそれを囲む食卓の風景を普段使いの現代日本空間で体験することのできる飲食店「ごはんや一芯 京都店」では、サイズ違いや傷によってペレットなどに粉砕され燃料となってしまう北山磨丸太を使い、磨かれた表面のやわらかな感触を足裏で体感する「磨丸太のフローリングパネル」を中心に空間を構成しました。また、残る丸太の芯材も厚み25㎜に製材したのち、その他の床材フローリング・縁甲板張りの天井材として、余すことなく使用することにより古来、日本人が持っている「勿体ない」を表現しています。

設計：株式会社ムーンバランス
施工：有限会社御崎工芸

Case Study

北山丸太や廃材活用も

大丸京都店

2023年9月末、大丸京都店のレストランフロアが49年ぶりにリニューアルオープンしました。

従来の「親子３世代で楽しめる空間」を継承しながら内装がリニューアルされ、漆喰などを使った丸みを生かした空間は新しいながらもどこか温かさや居心地の良さを演出しています。

そのような空間で北山丸太は京都の伝統を感じさせながらも丸太という人を和ませる要素として通路などに用いられ、合計９本の人造絞丸太が設置されています。

また、「屋上広場」として親しまれていた「ことほっとてらす」も一部リニューアルされ、北山丸太を始めとする京都の木材を使ったユニークなテーブルや椅子が多数設置されています。
特に椅子にもテーブルにもなる新しい使い方が印象的で、新たな憩いの場として北山丸太が彩りを添えています。













Case Study

親子で安心して遊べる木育広場

イオンモール京都桂川 もくいく広場

　イオンモール京都桂川では、『明日もイオンモール京都桂川に行きたい！』とご家族で親しんでいただけるショッピングモールを目指し、快適な施設環境でお子さまに楽しく遊んでいただくことを目的に、木育広場を整備しました。

　木材には地域とのつながりを大切にするため、京都府の木である北山杉を採用。北山丸太の形状を生かした木のトンネルやパーティション等にふんだんに使用しました。

上画像　　：広場全景
左下画像　：パーティションとして
　　磨丸太や面皮柱を使用
右下画像　：磨丸太を使った木のトンネル

設計・施工：株式会社グリーンディスプレイ

Case Study

「建築物等における北山杉の利用促進協定」
利活用者各社による取組

京都市
内田洋行株式会社
菊池建設株式会社
ナイス株式会社
三井住友信託銀行株式会社

建築物等における北山杉の利用促進協定について

2022年8月23日、北山林業の持続的かつ健全な発展や北山杉の利用促進に関する相互連携等を図ることを目的に、京都市と北山杉の利活用者（株式会社内田洋行、菊池建設株式会社、ナイス株式会社、三井住友信託銀行株式会社）、生産者（京都北山丸太生産協同組合、京北銘木生産協同組合）は「建築物等における北山杉の利用促進協定」を締結しました。その各者の取組をご紹介します。

（利活用者）株式会社内田洋行
菊池建設株式会社
ナイス株式会社
三井住友信託銀行株式会社
× （生産者）京都北山丸太生産協同組合
京北銘木生産協同組合
× 京都市

北山杉の利活用者グループと生産者グループは、北山杉の積極的な活用と安定供給に関し、相互連携と協働による活動を推進することで、北山林業の持続的な発展を図るとともに、SDGsや2050年カーボンニュートラルの実現等に貢献していくため、京都市と協定を締結。

建築物等における北山杉の利用促進協定



協定締結日：令和４年８月２３日
有効期間：協定締結日から令和８年３月末まで
対象区域：全国

➢ **利活用者グループの北山杉の利用促進構想**
・北山杉を積極的に活用することで、北山林業に係る技術や文化の継承、地域振興、SDGsや2050年カーボンニュートラルの実現等に寄与する。

➢ **利活用者グループの構想の達成に向けた取組の内容**
・北山杉の魅力向上に資する可能性のある事業において、北山杉の利用を積極的に検討、又は利用するよう努める。
・北山杉の利用促進に向けた魅力発信や普及啓発、北山杉の新用途の開拓や新製品の研究開発、北山杉の生産地の確保等のための商事信託等の方策の検討等に取り組む。

➢ **生産者グループの北山杉の利用促進構想**
・北山杉の安定供給等の協力を行い、森林資源の循環利用、SDGsや2050年カーボンニュートラルの実現等に寄与する。

➢ **生産者グループの構想の達成に向けた取組の内容**
・利活用者の建築物等の整備に備えて北山杉の供給体制を整え、求められる品質や量の供給を適時に行うよう努める。

➢ **構想の達成のための京都市による支援**
・技術的助言や補助制度等の情報提供、取組の広報等を通じて、積極的に支援する。木の文化推進に関する政策等の情報提供等を行う。

オフィス茶室

京都市役所本庁舎 和室





京都市役所本庁舎は、耐震性や老朽化といった問題を抱えていたことから、整備を行い、令和3年8月に改修工事が完了しました。
整備にあたっては、約100年前に建設された本庁舎の歴史的価値を保存、復元するとともに、京都が誇る歴史や文化、おもてなしの心が感じられる庁舎へと整備することを方針とし、ご寄付も活用しながら、新たに和室を設えました。

和室は、日本の伝統的な数寄屋建築に使用される木材をふんだんに取り入れるとともに、お茶を点てるための炉も設けています。世界の賓客をはじめ多くの方々をおもてなしし、木の文化を伝える空間として活用しています。

室内及びエントランスには、天然絞丸太の床柱や磨丸太の長押、杢目の美しさを引き出した面皮柱などの北山丸太をはじめ、栗名栗丸太、ヒバ錆丸太、香節皮付き丸太など、樹種、加工技法ともに様々な種類の木材を使用しています。

上画像：和室

下画像：エントランス

組立和室・ルーバーなど

内田洋行
国産材活用製品

　組立和室「くみたて」は国産杉材による屋内設置専用の組立和室です。角材を中心に構成される空間の中において、中央の床柱に北山磨丸太を採用することで、木肌・光沢・香りなどを体感してもらえるようにしました。
　コンパクトな中に和室の要素が一通り揃っており、ディスプレイとして、体験のステージとして、和の空間を演出します。障子の裏に映像をプロジェクションマッピングすることで演出効果を更に高めることもできます。

　他にもルーバーやベンチ、ネームプレートなど、多様な製品で北山丸太の積極的な活用を推進しています。

上画像：組立和室「くみたて」

左下画像：
本社受付カウンター後方に磨丸太を用いたルーバーを設置

下中央画像：
北山杉製ベンチ

右下画像：
北山杉製ネームプレート

設計：　くみたて・北海道大学／株式会社海野建設
　　ルーバー／ベンチ・株式会社内田洋行









展示会用ブース

木と暮らしの博覧会 展示ブース



ナイス主催の「木と暮らしの博覧会」は、国内の建材、住宅設備メーカーが一堂に会して環境・健康に配慮した最新設備をご紹介するほか、国産材を中心とした木に関する製品・技術・情報を見て触れて、体感しながら学べる展示会です。

菊池建設は「御茶屋建築」をコンセプトとした北山丸太を使った独自の展示ブースを出展。御茶屋とは桂離宮の「松琴亭」「笑意軒」などに代表される主に和歌、連歌、酒宴など遊興のための小規模な建築物で、外観は丸太や竹を用いた田舎家風・草庵の意匠ながら、内部の襖や手掛けにはきらりと光る貴族好みの感性がちりばめられた趣あるつくりに特徴があり、そのイメージを盛り込みました。





直角二等辺三角形の展示ブーススペースに合わせ、扇状に広がるタルキを長さ11mの軒桁で支える広い間口の奥に、曲面壁で構成された床の間を備えた三角形の座敷を設えました。北山丸太でしか調達できない細く通直で元末の太さに差が少ない長さ11mの磨丸太軒桁をはじめ、タルキ、柱、床框に至るまで北山丸太を使い、その魅力に直接見て触れて頂ける展示ブースを目指しました。

設計・施工：菊池建設株式会社

オフィス茶室

リファイン ホールディングス



「リファインホールディングス株式会社」は、国内外に多くの溶剤リサイクル事業・環境エンジニアリング事業の拠点を持ち、人類のサスティナビリティー実現を使命として、資源・環境のリファイン事業のほか、人が人を思いやる社会、その創造のために心の仕立て直しを目的とした「こころのリファイン事業」も展開しています。

「こころのリファイン事業」では、書や工芸品、着物などの日本伝統文化から感じられる感動や幸福感を通して自身の成長を促し、こころ豊かなライフスタイルの実現を目指すなど、様々な取組が行われていますが、その取組の一環として、2023年6月末、東京・丸の内にあるオフィスに本格的な茶室を設えました。

ここは国外のお客様を日本文化でおもてなしすることはもちろん、オフィスで働く社員にも日常的にこうした空間に身を置いてもらうことで、自分の殻を破り、成長をするための気づきを得てほしいという願いを込めてつくられたものです。
現代のライフスタイルでも使い勝手の良い椅子式の茶室で、畳の上に立札卓と喫架を置く設計となっており、今後様々な催し物がここで開催される予定です。





設計・施工：菊池建設株式会社

オフィス茶室

日本圧着端子製造 上海工場VIPルーム

「日本圧着端子製造株式会社」は主にコネクタ、圧着端子を製造する大手電子接続部品メーカーであり、 海外にも48拠点を持つグローバル企業です。
その上海工場のビルのVIPルームでは、日本文化である茶の湯でお客様とのコミュニケーションを図ることを目的に、本格的な茶室を設けました。

中門から露地、蹲踞（つくばい）と茶室に入るまでの本格的な設備を備え、和室8帖（畳式）と立礼席（椅子式）の2つの茶室と水屋を設けています。







設計：株式会社 岡部憲明アーキテクチャーネットワーク 山口浩司
施工：菊池建設株式会社

住宅内装

階段手摺
リノベーション

　触り心地の良い北山磨丸太を階段の手摺に活用した事例です。
　これはタルキ用の小丸太ではなく、柱や束用の丸太を使用している事例で、「握る」手摺ではなく、「手を載せる」手摺の笠木部分に使っているため、北山磨丸太を使用しています。

　階段に使用することで、北山丸太の存在感を生かしながらも柱とはまた異なる趣を楽しむことができます。





設計・施工：菊池建設株式会社

オフィス内装

自社オフィス木質化リノベーション



ナイスでは2022年から本社ビルの木質化リノベーションを進めており、その一つとして、1階ロビーにおけるらせん階段の手摺の一部及び2階接客スペースの手摺の一部に北山磨丸太を被せ、木質化しました。また、同じく1階ラウンジの一部について、北山天然絞丸太と北山磨丸太を活用した和室のモデル展示スペースを設置しました。約600年もの歴史を誇る北山丸太の緻密な材質や滑らかで光沢のある美しい木肌など、その優美さを来訪された皆様にご体感いただいています。

左下画像：
2階には、全長9メートルに及ぶ北山磨丸太（枝締め・本仕込み）を設置。



右下画像：
菊池建設（株）の設計・施工により、数寄屋造りのオーソドックスな和室を現代風にアレンジしたモデル展示スペース。床柱には北山天然出絞丸太を、畳座の上がり框には北山磨丸太を、テーブルの脚には北山面皮柱を使用。



設計・施工：菊池建設株式会社

オフィス内装

一般社団法人
サステナブル経営推進機構
オフィスエントランス

　京都北山地方の森をモチーフにしたエントランスウォールです。北山丸太をそれぞれ異なる大きさで挽き割った板材を用い、北山地方特有の育林方法である「台杉仕立て」を表現しています。
　北山丸太のうち、磨丸太や天然出絞丸太、小丸太、面皮柱などの製品を使用しており、それぞれの木肌の様々な表情が楽しめます。同オフィスでは北山杉の枝を活用したコートハンガーや北山丸太を用いた椅子、多様な丸太紹介用オブジェなども採用されています。









左下画像：
コートハンガー

中央画像：
打ち合わせスペースの椅子

右下画像
質感を体感できるオブジェ

設計監修：ナイス株式会社

医院内装

京都耳鼻咽喉音聲手術医院

特殊技術を要する手術において特許を取得し、海外からも多くの患者の方々が治療に訪れる治療院。アクセントウォールや階段の手摺及び笠木に北山丸太が用いられています。

洗練されたデザインに、600年の歴史を持つ伝統ある北山丸太の質感が調和し、落ち着きと温かみのある空間が演出されています。

エントランスや相談室の壁には、板材を重ねて貼り付ける「鎧張り」をアレンジしたアクセントウォールが設置されており、様々な杢目や質感を感じることができます。 また、階段の手摺には「北山タルキ」が、笠木には「北山天然出絞丸太」がそれぞれ使用されており、北山杉特有の美しく滑らかな木肌が生かされています。

左下画像：
北山丸太の滑らかな木肌が感じられる手摺と笠木

右下画像：
アクセントウォールが設置された相談室

設計：SHINOHE ARCHITECTS/四戸 広太郎
施工：ナイス株式会社







贈答用製品配布・産学連携

贈答用北山杉製品の配布・大学との産学連携企画



三井住友信託銀行株式会社は、2022年8月に締結された「建築物等における北山杉の利用促進協定」の事務局として毎月の協議会運営を行うとともに、北山杉の魅力発信や普及啓発、北山林業を起点とした地域活性化策を検討しています。

2022年度には、当社京都支店・大津支店の周年記念品として、北山杉製の置時計や箸、ボールペンをお客さまへ配布しました。また、法人のお客さま向けには、北山杉製のネームプレート（贈答品）や、北山杉製のしおり（手土産品）を配布する等、自社での積極的な活用を推進しています。また、京都市内大学とコラボレーションし、学生のアイデアを生かして新たな活用方法を模索する産学連携企画も立案・推進しています。

今後は、北山丸太の生産地の確保や木の文化の継承等のため、森林信託を活用した方策も検討する予定です。







上画像：法人のお客さま用ネームプレート（贈答品）

左下画像：法人のお客さま用しおり（手土産品）

真ん中画像：周年記念で配布したお箸

右下画像：周年記念で配布したボールペン

Case Study

その他の利活用事例

一般住宅

静謐の栖

　ご自宅に北山磨丸太の柱を効果的に使用した事例です。
　密集した住宅群の喧騒から逃れる為、三方の左官による擁壁によって隔離された住宅は、空に向かってだけ開かれ、非常に静かで静謐な空間を創っています。構造材が壁の中に隠蔽された面で構成され、北山磨丸太のみが一階のLDKに立ち現れます。
　この磨丸太の柱は、生活の拠り所として導線を生み出し、視点場からの焦点を創り、緩やかに空間を分断する事で象徴的な存在となります。また、やわらかな表情に触れる事で同じ生き物として自然な優しさを生活の中に取り入れることができます。
　「無い」という事より、「在る」という事で無限の想像力を掻き立てられます。

設計：株式会社ムーンバランス
施工：株式会社あめりか屋



一般住宅

ギャラリーを持つ家

　「京都の木の家」「注文住宅」の竹内工務店が手がけた「京都市北区〜ギャラリーを持つ家〜」は第4回「京都の木の家づくり表彰事業」で優秀賞を受賞した住宅です。
　「京都市北区〜ギャラリーを持つ家〜」はギャラリー空間を設けた兼用住宅で、構造の柱として、北山磨丸太を使用しています。
　北山磨丸太の柱と、梁の取り合いは大工さんが手刻みで加工をし、丸太の柱は、シンプルな空間のアクセントとなりました。こういった大工さんの手仕事が見える部分も評価の理由です。
　玄関ポーチと土間には島根県産の石州瓦タイルを敷き詰め、玄関ポーチの独立柱にも北山磨丸太が使用されています。

設計・施工：株式会社竹内工務店



オフィス内装

オフィスリノベーション

　北山磨丸太を壁面意匠に使用した接客室やオフィスエントランス、手摺などで活用した事例です。

設計・施工：里仁舎



一般住宅

パーティション活用

　現代風なデザインのマンションに木肌の美しい北山磨丸太を使用した事例です。マンションのリビングと居室とのパーティションに北山磨丸太を埋め込み、ガラスを挟み込んでモダンに仕上げています。
　洋風のデザインにも違和感なく溶け込み、自然素材ならではの優しさと、北山丸太のやわらかさが直線の多い空間に安らぎを与えています。

設計：株式会社リド



構造材利用

SCG森林研修棟「晴暉舎」

　成基コミュニティグループの森林研修施設の構造材として北山丸太を活用しました。天井を見上げると、長さ最大8メートルの北山丸太が12本。最大8mの北山丸太をトラス構造材として使用しています。このトラス構造の部材にも、北山丸太を使用しています。

設計：株式会社里仁舎・施工：株式会社田中工務店



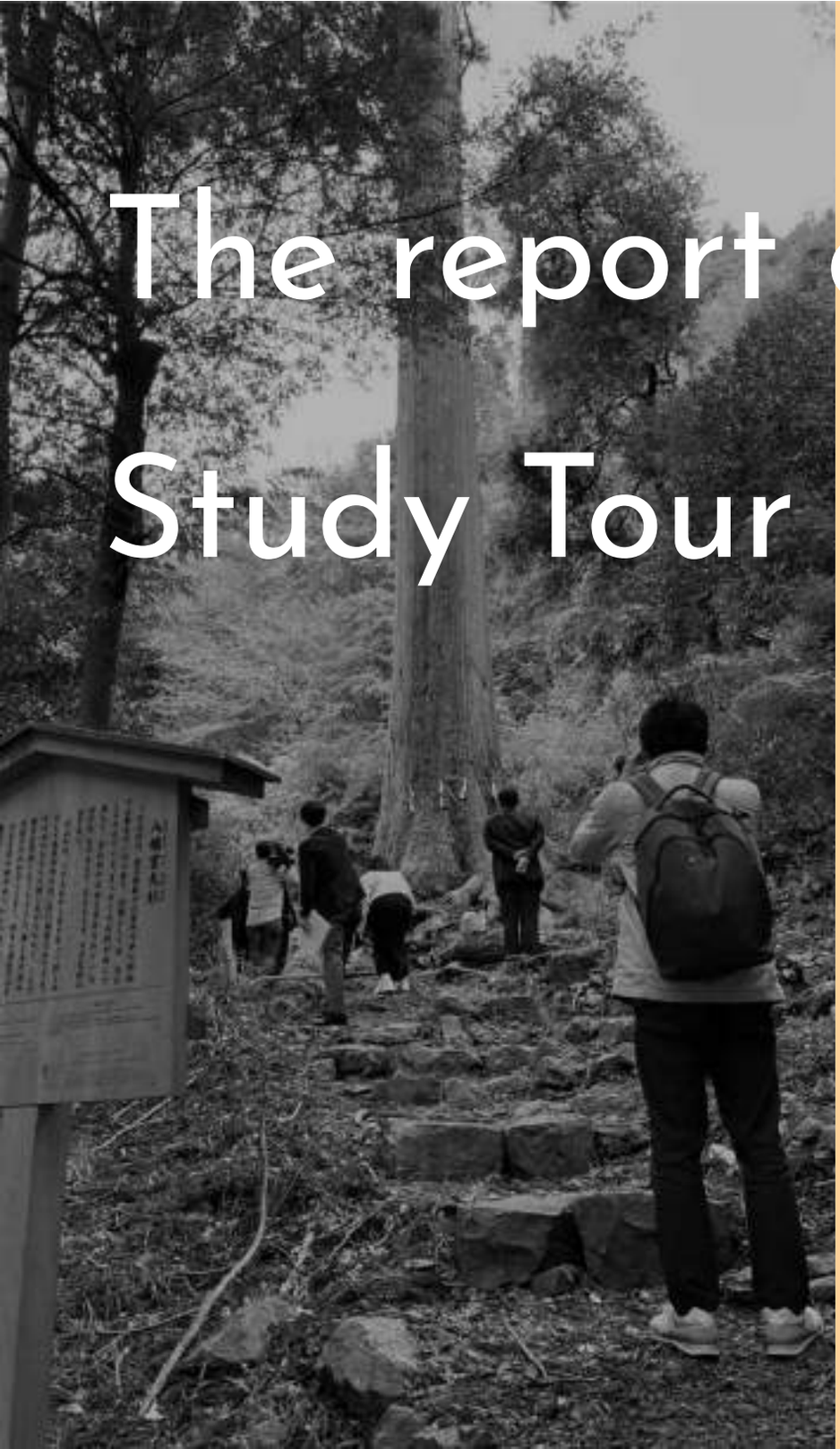
構造材利用

W,M.Vories 復活教会
100周年記念大規模改修

　ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計の京都復活教会の耐震改修の事例です。北山丸太のトラス構造により、軸材のみで地震力に耐え得る架構を組むことで開放的に耐震要素を取り込む形としました。
　北山丸太の交差ヴォールト天井はゴシック様式のヴォーリズ建築に配慮した上で構造検討を行いました。

設計・施工：株式会社SOL一級建築士事務所





The report of Study Tour

北山杉視察ツアーレポート

北山杉・北山丸太の認知向上と新しい利活用の可能性を探る施策の一つとして、建築関係者やメディア関係者などを招いた視察ツアーを2023年10月5日（木）に開催しました。今後もこうした視察ツアーを開催し、北山杉を取り巻く関係人口を増やすことで利用を強く推進していきます。



北山杉・北山丸太の本質的な価値に触れ、新しい可能性を探る視察ツアー

　北山杉・北山丸太の認知向上と新しい利活用の可能性を探る施策の一つとして、有識者を招いた視察ツアーを10月5日（木）に開催しました。
　当日は建築家の安斎好太郎氏（株式会社ADX 代表取締役）、内海彩氏（株式会社 内海彩・長谷川龍友建築設計事務所 代表取締役およびNPO法人team Timberize 理事）、鈴木恵千代氏（株式会社乃村工藝社 エグゼクティブクリエイティブディレクター及び一般社団法人日本空間デザイン協会 理事）の3名、並びにメディア関係者も2名ご参加いただきました。
　当日は北山丸太を使用している数寄屋建築と現代的な活用例の見学を行なってから北山丸太の生産地を巡るという構成で実施。

　まず訪れたのは創業200年超の老舗京菓匠、鶴屋吉信本店の茶寮「游心」。
　日本を代表する数寄屋の名匠である中村外二工務店の中村外二氏が手掛け、中村外二工務店の3代目である中村公治代表ご自身が数寄屋建築の美学と、その中で緻密に計算され使用されている北山丸太の美しさ、姿形の統一感のすばらしさ、割れない強靭さ、ゆっくり丁寧に育てられている北山丸太の杢目など、その価値について語ってくださいました。

北山丸太を使用した飲食店「ごはんや一芯」を
ムーンバランス辻村氏が解説

　続いて見学したのは行列のできるランチ店として有名な「ごはんや一芯」京都店の店舗。こちらの店舗では、サイズ違いや傷、曲がりによってペレット等に使用されてしまう北山丸太を店舗の建材やテーブルとして採用しています。
　ご案内いただいたのは京都を拠点に活動される建築デザイン事務所、ムーンバランス代表の辻村久信氏。

　規格外で捨てられてしまうはずだった磨丸太や天然絞丸太を、材質の緻密さからくる表面の滑らかな肌触りややわらかさを残すようにスライスし、それを組み合わせて床材に仕立て直して使用しています。ひび割れがしにくいため、靴を脱ぎ素足で上がっても安心してその感触を感じてもらえるということでした。
　残った芯材も、フローリングや天井材、テーブルとして余すことなく使用しています。











北山杉の産地である中川にて文化と生産へのこだわりに触れる丸太の磨き作業体験も

市内から北山丸太の故郷である北区中川地区へと移動し、京都北山丸太生産協同組合理事の松本吉弥氏の案内により、中川八幡宮内の樹齢600年といわれ、厳かな空気の中にまっすぐそびえている母樹の「シロスギ」や樹齢450年とされる大台杉を見学し、枝打ちや磨丸太の磨き作業体験にもご参加いただきました。

北山丸太製品ストックヤードや北山杉を使ったプロダクトも見学し、様々な丸太に参加者の熱量も上がり「これはどこに使ってみたいか」という議論で盛り上がりました。

北山杉・北山丸太というブランドを守る林業従事者やプロダクトを生み出す生産者、そして、日本文化として大切に使っていくことで伝えてくれる次世代へ。
今後もこうした視察ツアーを開催し、北山杉を取り巻く関係人口を増やすことで利用を強く推進していきます。

当日の詳しい様子はこちらをご覧ください。

▼京都北山丸太生産協同組合HP
前編
https://blog.goo.ne.jp/kyotokitayamamaruta/e/6232910cbb5dab36268813a72d23dcd6
後編
https://blog.goo.ne.jp/kyotokitayamamaruta/e/efcaf51144863bc2c59f291b0b80a7fb

前編

後編

北山丸太製品



北山丸太の種類

北山磨丸太



北山丸太の基本製品です。材質が緻密で節がなく木肌は滑らかで光沢があり、また通直で真円に近く元末の差が少ないのが特徴です。

北山天然出絞丸太



木肌に自然にコブ状・波状の凹凸（絞り）ができたもので、品種や地質、日当たりによって様々な表情が見られます。主に床柱として使用されています。

北山ちりめん絞丸太



天然絞丸太の一種です。出絞はコブ状・波状に突出しているのに対し、この品種は溝のような絞りが特徴で、非常に希少な品種です。

北山人造絞丸太



木肌に波状に出る天然絞りを人工的につけた商品です。伐採の２～３年前に箸状の材料を幹に巻き付けて絞り模様をつけたもので、床柱として一般的に使用されています。

北山タルキ（小丸太）



北山丸太の垂木（タルキ）用材。無地が特徴で元末の差があまりなく、茶室や数寄屋住宅に利用されますが、最近では手摺やルーバーなどの装飾用としても使用されます。

北山面皮柱



磨丸太を手斧（ちょうな）などで製材し、丸太の木肌を残しながら杢目の美しさを引き出したものです。

Specification

北山丸太仕様書

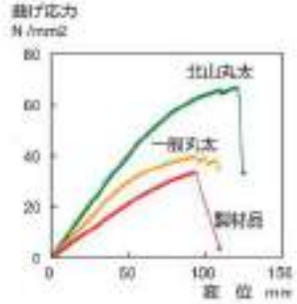
品名	磨丸太 （みがきまるた）	天然出絞丸太 （てんねんでしぼまるた） ・ちりめん絞丸太	人造絞丸太 （じんぞうしぼりまるた）	垂木（タルキ）	面皮柱 （めんかわばしら）
樹種	北山杉	北山杉	北山杉	北山杉	北山杉
長さ ()内は実質使用可能な長さ	３m、４m （2.9m、3.9m）	３m （2.9m）	３m （2.9m）	0.9m～4m	３m （2.9m）
特注サイズ ()内は実質使用可能な長さ	5～8m	４m （3.9m）	４m （3.9m）	ー	４m （3.9m）
直径（末口）	φ60㎜～200㎜程度まで	φ105㎜～200㎜程度まで	φ105㎜～200㎜程度まで	φ30～60㎜	ー
直径（目通り）	ー	ー	ー	ー	90×90㎜～150×150㎜ 程度まで
主な用途	飾り柱、床柱、棟木、 霧除、桁、手摺など	床柱、化粧柱など	床柱、化粧柱など	化粧垂木、手摺、 ルーバーなど	化粧柱、床柱など
特徴	木肌には絞り模様が無く、滑らかで光沢がある。 背割り有。	表面に自然にできた、こぶ状の絞り模様があり、光沢がある。 背割り有。	表面に波状の絞り模様があり、光沢がある。 背割り有。 磨丸太となる北山杉から選んだ丸太の幹にプラスチックの添え木を針金で巻き付け、2～３年の太りを利用して絞り模様を付けたもの。	磨丸太のより細いもので、小丸太とも呼ばれる。木肌には絞り模様が無く、滑らかで光沢がある。 背割りは有りと無しがある。	磨丸太または天然出絞丸太の皮の部分（四隅）を約1.5㎝ずつ残し四面を製材するか、チョウナではつった柱。 はつった面には磨丸太の場合、無地で綺麗な中杢が、また天然出絞丸太の場合、無地で玉杢のような変化のある独特の杢目が出る。 背割り有。

北山丸太参考資料

曲げ強さは製品材の1.8倍、曲げヤングは製品材の1.35倍

曲げ強度試験

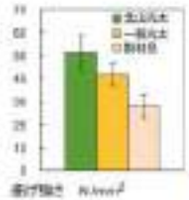
北山丸太、一般丸太、製材品、各5体ずつを試験しました。
曲げ試験の一般的な変位ー応力図です。
北山丸太の最大応力が高いことや、ヤング係数（グラフの立ち上がりの傾きが急なほどヤング係数が高い）が高いことがわかります。

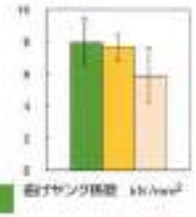




【ヤング係数とは】
木材のたわみにくさを表す指標が曲げヤング係数です。
木材の強度の目安で、建物の構造計算に欠かせないものです。

北山丸太、一般丸太、製材品、各5体ずつの「曲げ試験」結果です。
北山丸太の曲げ強度、曲げヤング係数が高いことがわかります。





曲げ強さ

北山丸太は、製材品の1.8倍

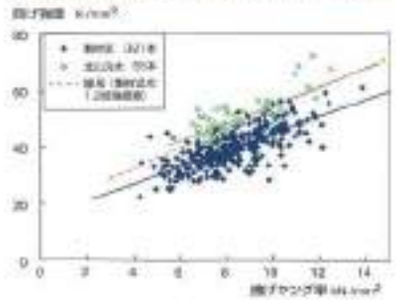
一般丸太は、製材品の1.5倍

曲げヤング

北山丸太は、製材品の1.35倍

一般丸太は、製材品の1.3倍

スギ製材品と北山丸太の曲げ強度と曲げヤング率

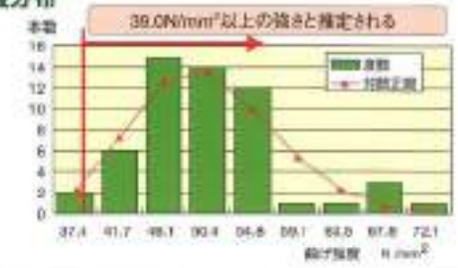


北山丸太55本の曲げ強度試験を行いました。
左図は、これまで京都府林業試験場で行ってきたスギ321本の曲げ試験結果と、今回の55本の北山丸太との比較をしたものです。
北山丸太が、強度、ヤング係数ともに高いところに分布していることがわかります。

座屈破損応力なども製品材よりも高い値に

北山丸太の曲げ強度分布

曲げ強度の
5%下限値
39.0N/mm²



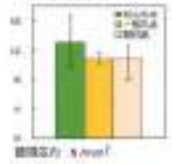
55本の試験の結果から北山丸太の曲げ強度の分布を推定し、曲げ強度の下限値を求めました。

建築基準法のスギ製材品の基準強度

無等級材	22.2N/mm²	……	北山丸太の39.0は1.76倍
機械等級	E-70 29.4N/mm²		
	E-90 34.8N/mm²	……	北山丸太の39.0はE-90以上
	E-110 40.8N/mm²		
	E-130 48.3N/mm²		

座屈強度試験と縦圧縮強度試験

座屈試験結果



北山丸太、一般丸太、製材品、各5体ずつの「座屈試験」結果です。
北山丸太の座屈破損応力が製材品等に比べて高いことがわかりました。

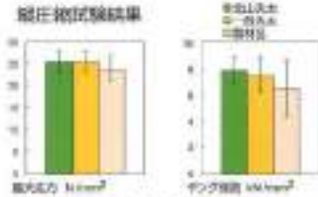
座屈破損応力

北山丸太は、製材品の1.2倍

一般丸太は、製材品とほぼ同等

※座屈の力：長い柱を上下から押したときの「はらみだし」に対する抵抗力

縦圧縮試験結果



北山丸太、一般丸太、製材品、各5体ずつの「縦圧縮試験」結果です。
縦圧縮についても、製材品より高い値ですが、他の強度よりもその差は大きくありません。

縦圧縮強さ

北山丸太は、製材品の1割増

北山丸太と一般丸太は、ほぼ同じ

縦圧縮ヤング

北山丸太は、製材品の1.2倍

北山丸太と一般丸太は、ほぼ同じ

北山丸太製品（壁材・腰板）

洛北

北山丸太の新しい用途として腰板・壁板用に開発された製品です。木肌と杢目の両方に美しさを持ち、公共施設から店舗、住宅など幅広く用いられています。





古都 Natural

天然出絞丸太の表面に自然にできる絞り模様を活かした化粧用材です。艶やかでやわらかな表情がおもてなしの空間をより上質に演出します。





Products

北山丸太製品（化粧用材）

北山天然出絞丸太 圧密合板 叢雲（むらくも）

天然出絞丸太を板材にすることで神秘的で美しい杢目があらわに。
そこに圧密加工技術を施すことで広葉樹と同程度の強度を持たせており、テーブルやカウンターの天板に最適な素材です。







北山丸太製品（インテリア）

KITAYAMA

北山天然出絞丸太を使用したインテリア・ルーバー。
美しい木肌、色合い、滑らかな手触り、天然出絞丸太の木肌（コブ状の凸凹絞り）が光の当たり方によって様々な表情を映し出し、空間にモダンなアクセントを作り出します。





北山丸太製品（インテリア）

北山丸太とガラスのパーティション

北山磨丸太のまっすぐで艶やかな木肌にガラスがマッチした、スタイリッシュながらもやわらかな印象を空間に与えるパーティション。
マンション・オフィス両方にお使いいただけます。



Contatct

北山杉・北山丸太製品等に関するお問合せ

【生産者】

京都北山丸太生産協同組合

TEL　：075-406-2955

MAIL：info@kyotokitayamamaruta.com

京北銘木生産協同組合

TEL　：075-852-0490

MAIL：info@keihoku-meikyou.jp

【利活用各社】

株式会社内田洋行

TEL　：03-5634-6628

MAIL：ml-govt@uchida.co.jp

菊池建設株式会社

TEL　：045-503-0303

MAIL：info@kikuchi-kensetsu.co.jp

ナイス株式会社

資材事業本部木材開発部

TEL　：045-503-3583

MAIL：kokusanzai@nice.co.jp

三井住友信託銀行株式会社

京都支店 法人営業第一課

TEL　：075-212-6820

■転載などについて：

本資料において掲載されているすべての内容の著作権は、特別の断り書きが無い限り発行者に帰属するか、発行者が著作権者より許諾を得て使用しているものです。
本資料の掲載内容（文章、画像）を、事前の許諾なく無断で転載、転用、編集、改変、販売、翻訳、変造することを固く禁じます。
万が一、そのような事実を発見した場合には、警告の上、悪質な場合には法的措置をとる場合がございます。
引用は著作権法に則り適切に行ってください。引用する場合は、出典を「©京都市／京都・北山杉PR BOOK」と記載してください。また、使用に当たってはガイドラインを順守してください。

■発行：京都市産業観光局農林振興室林業振興課（問合せ先：075-222-3346）
令和6年1月、京都市印刷物第０５３１４４号

■制作：北山林業ブランド化プロモーション業務コンソーシアム

構成員：
京都北山丸太生産協同組合 / 京北銘木生産協同組合
内田洋行株式会社/株式会社神谷製作所/菊池建設株式会社
ナイス株式会社/三井住友信託銀行株式会社

この冊子の制作には、京都府豊かな森を育てる府民税を活用しています。